

東海道沿道のつながりある景観形成について

1 現況

① 東海道沿道全体の景観



東海道は、江戸時代の五街道の一つに数えられ、江戸日本橋から京都の三条大橋までの126里6町1間(約496km)を結ぶ、主要な街道として位置づけられていました。街道には53の宿場が設置され、さらに大阪へとつながっていました。当時の様子は、浮世絵師歌川広重の『東海道五十三次』などでも伺い知ることができます。道は平坦で砂が敷かれ、街道の両側には、その土地に適した樹木が植えられて並木となっていました。さらに道路脇には溝があるなど、当時としては、とても整備された道であったと伝えられています。

近江には土山、水口、石部、草津、大津の五つの宿場がありました。中でも草津宿、大津宿は、湖上舟運こしょうしゅううんや交通の要として重要な宿場であり、東海道屈指のにぎわいを誇っていました。人や物の往来の中で多くの文化が生まれ、庶民の間で流行した素朴な民衆画である『大津絵』や日本最初のそろばん『大津算盤』をはじめとするお土産物が広く知られるようになりました。また、街道の楽しみである茶屋での一服からは、万葉時代から知られる井戸の清水で作られた大津の『走井餅』、旅人が陸路で行くか航路で行くか思案しながら食べたとされる草津の『うばがもち』などの名物が生まれ、今も昔も人びとの心を癒しています。

さらに、豪華絢爛な曳山が巡行する『大津祭』や時代装束で練り歩く『草津宿場まつり』など、街道沿いの祭りや行事はにぎわいある景観を作りだしているとともに、^{しょうぎ むしこまど} ぼったり床几や虫籠窓などの特徴を持つ町家や、近江八景の一つ『栗津晴嵐』^{あわづのせいらん}として知られる松、織田信長や豊臣秀吉により施工・改修が行われたとされる『瀬田唐橋』^{せたのからはし}など、まちなみの中に歴史の面影に出会える場所が数多く残されています。

東海道は、人や物の往来により、その土地の文化が育まれ、魅力ある景観となっています。現在、両市では、東海道が持つ風情あるまちなみと調和した景観づくりに向けて、電線の地中化や道路の美装化などの取り組みが進められています。



大津祭



草津宿場まつり



ぼったり床几



虫籠窓



栗津晴嵐の松



瀬田唐橋

② 宿場町の景観

大津宿は、東京の日本橋から京までの道のりの最後の宿場であり、東海道五十三次中最大の宿場でした。かつては2軒の本陣と脇本陣があり、古くから北国及び琵琶湖周辺の物資が集散する、^{こしょうしゅうん} 湖上舟運の要として、道の両側には70を超える^{はたご} 旅籠がありました。現在も、まちの至る所に歴史ある町家が残されています。

一方草津宿は、東海道と中山道の分岐・合流点として繁栄しました。また、琵琶湖の矢橋港へ至る矢橋街道が分岐する交通の要衝であり、物資の動きを監視する『貫目改所』^{かんめあらためしよ}が設置されるなど、東海道の中でも重要な宿場とされていました。現存する本陣としては最大級である草津宿本陣は、国の史跡にも指定され、昔のままの姿を残しています。

都市化が進む両市ですが、そのまちなみは今もなお、歴史の面影を色濃く留めています。



史跡草津宿本陣

2 東海道沿道の景観の魅力と課題

① 東海道沿道の景観の魅力

両市の東海道を歩けば、歴史ある町家が立ち並ぶまちなみや、近江八景縁の場所、町家だけではない各時代の魅力が活かされた連続性ある景観に出会うことができます。またそこには、歩いてこそ感じることができる、住まう人びとの生活の息づかいや、琵琶湖の気配があり、歩くたびにその魅力を発見することができます。

両市の東海道は、都市化が進む中にも、どこか懐かしい、心安らぐ景観を楽しむことができます。

■ 東海道統一案内看板

沿道景観の統一性・連続性を目指して、東海道の歴史や、町の魅力を発信するために設置する、両市統一のデザイン看板です。



◀ 草津市野路屋



◀ 大津市HOTEL 講

② 東海道沿道の問題点

現在の東海道沿道の景観には、たくさんの魅力がある一方で、次のような問題点があります。

- 都会的なにぎわいを感じる建物やマンション、屋外広告物の中には、歴史を感じる東海道沿道のまちなみや雰囲気と調和が取れていないところがあります。
- 東海道沿道景観を印象づける町家やレトロな建物も、都市化の流れの中で失われつつあります。
- 今もなお、人や物の交流により育まれた歴史や文化がつながる東海道ですが、時代の流れとともに、まちなぎわいや人びとの想いが薄れつつあります。
- かつての旅人たちが憧れを抱いて歩いた東海道も、今その魅力に触れようと歩く人は、少なくなってきました。また東海道に対する案内も少なく、分かりにくく感じるところがあります。

③ 東海道沿道の景観形成の課題

東海道沿道の魅力や問題点を踏まえて考慮すべき課題を、次のように整理します。

🏠 歴史を感じる魅力あるまちなみの保全

両市の東海道沿道には、歴史の風情を感じることができる町家や本陣跡、道標などが数多く残っており、景観の大きな構成要素となっています。

さらに、それらは一つの時代に限定されることのない、様々な時代を想わせる建物や屋外広告物など、厚みのある豊かな歴史と現代の暮らしとの融合により、両市の魅力ある新しい東海道沿道景観が作りだされています。

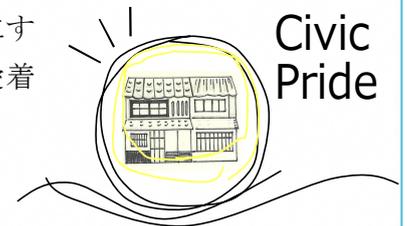
これらの風情と調和の取れた、東海道沿道の歴史が感じられるまちなみを守っていくことが必要です。



🏠 時代を超えて受け継がれてきた東海道の魅力を守り、大切にしたい想いを育み、つなげる

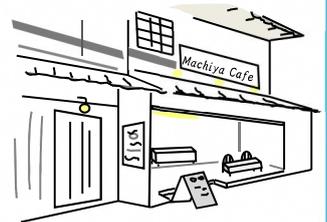
東京日本橋からはじまる東海道は、長い時を経てもなお、その地域の魅力を色濃く残しながら、現在も京都・大阪までを結んでいます。それは、東海道沿道のまちなみは時とともに変わり続けても、この道に対する人びとの愛着や誇りが、時代を越えても変わることなく受け継がれてきたからこそです。

両市の東海道沿道の魅力ある景観を守るには、東海道を大切にしたい人びとの想いを、次の世代にもつなげていくとともに、人びとの愛着や誇りを育んでいく必要があります。



🏠 東海道の歴史や文化を活かし、人びとの交流やまちのにぎわいを創造

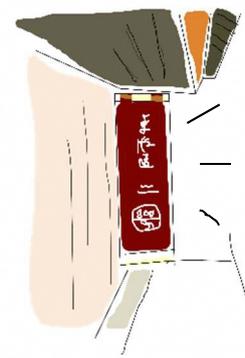
両市の東海道沿道では、人びとの暮らしや営みがいきいきと続いてきたことで、豊かな歴史や文化が生まれ、その魅力ある景観をつくりだしてきました。古くから継承されてきた、これらの歴史や文化を活かしながら、人びとが集い、行き交う景観を創造することは、まちに活気とにぎわいをもたらすと同時に、景観まちづくりにとても大切です。



🏠 歩きたくなる景観の仕掛け

両市の東海道沿道は、歩いてこそ、その魅力に触れることができると言えます。町家の様式や歴史ある看板、庭のしつらえや商店での買い物など、ゆっくり歩いて楽しめる魅力がたくさんあります。

歩いてこそ感じることができる東海道の沿道景観の魅力に気づき、より楽しんでもらえるような仕掛けづくりが必要です。



3 東海道沿道の景観形成の目標と目標像

① 東海道沿道の景観形成の目標

魅力ある東海道沿道を未来に継承するよう、これから両市が目指す東海道沿道の景観形成の目標を次のように定めます。

目標

東海道のつながりを守り、新たな歴史景観を創造する

両市を通る東海道沿道は、厚みのある豊かな歴史と現代の暮らしとの融合により、連続性ある魅力的な景観が作りだされています。

東海道を歩けば、こうした魅力ある景観とともに、人や物の交流により育まれた歴史や文化に出会うことができます。これは東海道を大切に想う人びとが、長い時をかけて培ってきた大切な東海道のつながりです。

これら時代を超えて受け継がれてきた東海道の多様なつながりを守り、より人びとが集い、行き交うような魅力ある東海道沿道の新たな歴史景観を創造していくことが重要です。

② 東海道沿道の景観形成の目標像

東海道沿道景観の魅力や目標を踏まえて、東海道沿道の景観形成の目標像を次のように示します。



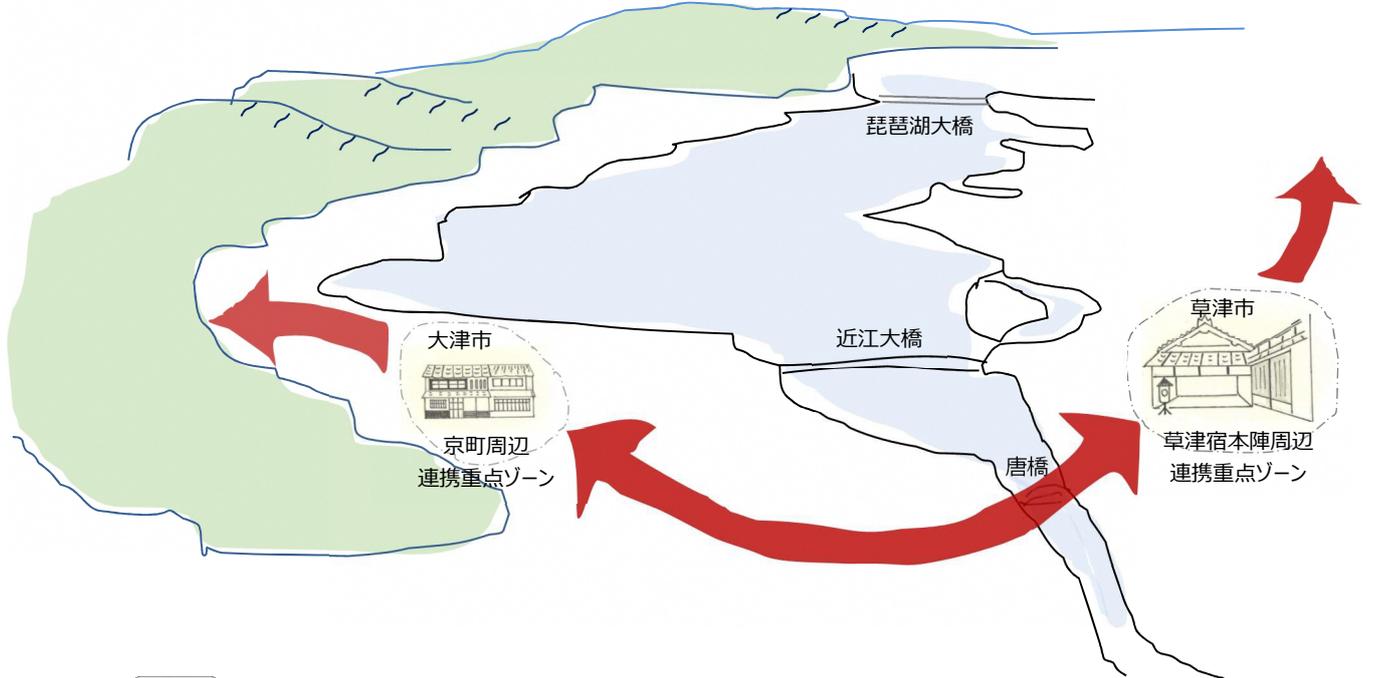
大津市京町通り周辺



草津市本陣通り周辺

両市ともに都市化が進む中でも、様々な時代の歴史が感じられるまちなみと、それを大切にする人びとの想いをつなぎ、時代とともに変化する東海道沿道の新たな景観を創造していきます。

東海道沿道の景観形成のゾーン図



東海道沿道景観の連携重点ゾーン

大津市京町周辺のまともりある町家や草津宿本陣周辺の景観を守り、創造するゾーン



東海道沿道景観のつながりゾーン

東海道のつながりを意識して、沿道景観を守り、創造するゾーン

4 東海道沿道の景観形成の方針

東海道沿道の景観形成の保全、創造の方針を次のように定めます。

方針

1

東海道のつながりを意識した、沿道景観の保全

人・物・文化など、東海道の多様なつながりを意識して、調和の取れた東海道沿道の風情あるまちなみを守ります。また、東海道に対する人びとの想いを育み、東海道をいっそう愛着と魅力あるものとして未来につなげるために、両市の東海道沿道における景観誘導を図ります。

方針

2

東海道の魅力を活用した、新たな歴史景観の創造

まともりある町家や本陣跡周辺などを拠り所とする、両市の東海道沿道が育んできた歴史の魅力を活かしながら、新たな東海道の歴史景観を創造していきます。

歩きたくなる景観の仕掛けとして、東海道統一案内看板を通じたまちづくり等の、まちに活気とにぎわいをもたらすような景観施策を推進していきます。